

支部だより

2023/6/8 No.37 東京支部事務局

支部活動報告 2月～5月

突然で、大変悲しいお知らせです。去る5月21日、萩原史郎先生(JNP 指導会員、JNP 東京支部講師)が亡くなりました。5月21日、志賀高原でロケハン中に14時頃、山の駅で突然倒れられ、救急搬送されましたが、帰らぬ人となりました。

前日に東京支部の例会で、熱心に講評をしていただいたばかりでしたので、この訃報は未だに信じられません。

東京支部でのご指導が始まったばかりで、大変楽しみにしていたのですが、残念でなりません。心よりご冥福をお祈りします。

2月から5月の活動は以下盛り沢山でした。

詳細は後述

- ・第1回定例研究会 3月28日
- ・第2回定例研究会 5月20日
- ・第1回 JNP 関東5支部交流撮影会 4月1日
- ・初夏の月山撮影会 5月14日～16日

ガイドの川名さんには、撮影指導の他に、参加者の中の足の不自由な方のサポートなど大変お世話になりました。撮影指導をうけた参加者にも好評でした。

定例研究会(以下、例会)



●本年第1回の例会を3月28日、ケンコー・トキナー4階B室で、JNP 指導会員の萩原史郎先生を講師に迎えて開催した。

出席者18名+2名(画像を提出して欠席)+見学者2名であった。

終了後、近くで先生を交え懇親会を行った。

●第2回の例会は5月20日、ケンコー・トキナー7階セミナー室で開催した。

出席者20名+2名(画像を提出して欠席)+見学者2名であった。

第1回の例会、第2回の例会とも、萩原先生に事前に画像を送り、それぞれを詳細に検討していただいた結果を会場での講評で発表していただいた。各人の5点の作品から金と銀を選び、最後に金の作品から優秀作品数点を選んでいただいている。画像処理をあまりしない人の場合と処理をする人の場合、それぞれの対応法を説明された。プロジェクターでの講評はPhotoshopのCamera Rawに画像を取り込んで分かりやすかった。熱意溢れる素晴らしい講評であった。講評はビデオにとり、欠席者のみならず画像提出の全員に配布した。

今後、先生の講評が聞けないと思うと、とても残念である。

第1回 JNP 関東5支部交流撮影会報告

昨年末より始まったJNP 関東地区情報交換会にて、関東5支部交流撮影会を行おうという発案があり、2023年4月1日(土)、国営昭和記念公園にて、JNP 指導会員の萩原史郎先生を迎え、第1回の交流撮影会を実施した。

今回は、東京支部が幹事を担当した。

関東地区5支部から47名もの多数の方々(全会員の約3分の1)に参加していただいた。

駐車場が大混雑で、車組の集合が遅れたため、まず、約半数の参加者だけで、公園の入り口近くの日陰に集まって、前山理事の挨拶に続き、東京支部の井上支部長より当日の進め方の説明、萩原史郎先生より、撮影ルートなどについての紹介、東京支部撮影会担当の菅澤会員より公園での注意事項の説明を終えて、公園に入り撮影を開始した。

引き続き、神奈川支部と群馬支部の車組が到着し、それぞれ、入口近辺で簡単な説明を受けて入園した。皆間もなく先行部隊に追いつき合流することができた。

桜も丁度満開、チューリップも見頃の中、萩原先生より、様々な撮影ポジション・撮影方法など丁寧な撮影指導を受け、質疑応答もしながら、皆楽しく撮影を進めた。

2023 初夏の撮影会報告



チューリップ庭園などを経て、桜の杜の前景に菜の花畑が広がる「みんなの原っぱ」の奥に向かった。あっという間に集合時間の13時近くになり、集合場所である「みんなの原っぱ」の大ケヤキ近辺に集まった。食事をしてから、集合写真を撮り、安藤理事、萩原先生の挨拶のあと解散となった。



初めての関東5支部交流撮影会は、天候にも恵まれ大変楽しい有意義な会となった。これも、萩原先生はじめ、参加された皆様の多大なご協力のお陰と感謝している。特に関東5支部の支部長の方々には参加者募集など大変なご苦勞をおかけした。

(文責 井上武夫)

JNP 東京支部の2023初夏の撮影会を5月14日(日)～16日(火)の日程で、山形県の月山周辺で開催しました。宿泊は志津温泉の「月山の宿かしわや」で、宿のマイクロバスを使って撮影場所へ移動する計画で、ガイドは郡山在住で月山周辺に詳しい川名和夫氏に依頼。最終的に13名の参加となりました。(敬称略:伊藤、井上、佐々木、佐藤直、鈴木雍、陶山、戸張夫妻、野間夫妻、藤野、渡邊、菅澤)

新幹線組8名は14日11時過ぎに山形駅に集合。皆、同じ新幹線での到着となりました。宿のバスで迎える予定でしたが、前日に唐突にバスの都合がつかず、駅で午後2時まで待機するよう連絡がありましたが、何とかするよう指示。ワゴンタクシーが迎えに来ていました。時間はかかりましたが、無事に12時半過ぎに宿に到着。車で参加の5名と合流しました。初日は地蔵沼と周辺のブナ林で撮影。心配した残雪も何とか残っており、ほっとしました。新緑と残雪の地蔵沼、残雪のブナ林でのお宝さがしです。

2日目は残念ながら1日中雨で、朝景を撮影しに姥沢の雪原へ向かいましたが、朝日は出ずじまい。宿で朝食後、ネイチャーセンター周辺の自然園のブナ林で撮影。その後たまたま見つけた水芭蕉の群落で撮影し、希望者はさらに大井沢の水没林を撮影しました。雨のため夕景は断念。3日目は天候は回復傾向で、早朝撮影は中台沼で、宿で朝食後は大暮沼で撮影しました。その後11時頃に宿にて解散としました。新幹線組は宿のバスで山形駅へ。

宿の「かしわや」さんには、撮影地に行くマイクロバスの提供と、その時間などについても、こちらの細かい希望も聞いていただくなど大変お世話になりました。また、食事地元山菜などふんだんに使われた素晴らしいものでした。

天気予報通りに天候には恵まれず、残雪も少なく、タイミングが遅かったこともあり、対象の選択に苦勞する撮影会となりました。それでも思いがけず水芭蕉の群落があつたり、きっと数多くの傑作が撮影出来たのではないのでしょうか。

事故も無く、撮影会を終了することができ、参加者関係者の皆様に感謝いたします。

(文責 菅澤光裕)



地蔵沼にて集合写真



中台沼にて

初夏の撮影会(月山)に参加して

2023年度初夏の撮影会は、残雪と新緑が映える「山形県・月山」で行われました。今年は、地球温暖化と長雨等の影響から、桜をはじめ多くの花の開花時期が1週間～10日程度、また、雪解けも早く、狙い通りの撮影が出来るか？心配しましたが、何とか、撮影ポイントを探しながらの撮影が出来ました。

私たち夫婦は、米沢に前泊し水没林が残る「白川湖」での早朝撮影を終え、集合場所である志津温泉「月山の宿・かしわや」に直行。メンバーを迎えた後、ガイド役の川名さんの案内で「地蔵沼」へ。「地蔵沼」は、残雪もあり、沼の水の綺麗な緑、新緑の映り込み、溪流と水芭蕉、ブナ林と根開け等まだまだ月山の春を見ることが出

来ました。

2日目は、1日中小雨。姥沢駐車場付近での早朝撮影。雨の中雨具を着、傘をさし、残雪と新緑を狙い、一瞬の雨の合間をみて、レンズを拭きながらの撮影。早めにマイクロバスに戻ったのが失敗・・・戻った瞬間霧が出て良い雰囲気・・・残念ながら、これを逃してしまいました。朝食後、自然博物館ネイチャーセンターへ。計画当初は、標高の高い「周海沼」まで行く予定であったが、天候と登りの大変さからガイドの川名さんの判断でネイチャーセンター前のブナ林広場周辺での残雪と新緑、溪流と新緑、水芭蕉他の撮影に変更、お昼ご飯のおにぎりを食べた後、地蔵沼上の溪流に咲く水芭蕉を撮影。皆、必死になり溪流に沿って咲いている水芭蕉をモデルに没頭。水芭蕉に集中している数人を残し、その他は、大井沢方面の水没林、桜(残念ながら桜は葉桜)のロケハンに向け出発。

3日目(最終日)は「中台沼」での早朝撮影。お天気が良さそうなので期待しながら、撮影ポイントへ。「中台沼」は過去秋の撮影で2回、また、去年は今回と同じ時期に来たことがある撮影ポイントである。去年は、道路に多くの雪が残り、かなり手前から歩いて行かないとダメであったため断念した。

今回も、「中台沼」手前に多少の雪が残っており、マイクロバスが入れず、10分程度歩く必要があったが短い距離だったので撮影ポイントまで行くことが出来た。ポイントに着くとまさに朝陽が入る寸前、新緑が朝日に照らされとても綺麗な輝き(ただ、朝日が光芒の如く入る場面を想像していた私には少しがっかり)、急いで撮影準備をし撮影を開始した。湖面はシャーベット状態のところもあり、この季節にしか撮れない作品づくりが出来た。宿に戻り、朝食、帰り支度をし、井上さんの案内で最後の撮影ポイント「大暮沼」へ。途中、危険そうな急斜面を登り、まだ氷に閉ざされた「大暮沼」に到着。着いたとたん、既に撮影に来ていた人が、「もっと近い道からくれば良かったのに！」皆、無言で井上さんに冷たい眼差し・・・井上さん曰く、皆の足腰のトレーニングを兼ね道を選んだんですよとの一言・・・いやあそうだったのか！「大暮沼」は湖面の氷の一部が解け、対岸の木々、新緑の映り込み、薄っすらとグリーンブルーに染まった湖面が美しく月山最後の撮影を楽しみました。 3/5

撮影会は、いろいろな面で、必ずしも私の期待通りのコンディションではなかったが、残雪、霧の中の新緑、根開け、溪流と水芭蕉等作品になりそうなポイントにも出会うことが出来、得るものがあった。

さらに運が良いことに、一人4000円の地域経済活性化クーポンをいただき、私達も道の駅でお酒とガイドの川名さん推薦のサクランボ・ラフランスゼリーを購入、帰宅途中立ち寄る宿泊地・会津田島に向かった。

今回の撮影会を通じ、メンバーも高齢化が進み、撮影会のあり方も変えて行く必要が出て来ていると感じました。私が支部長の時は、「安全な撮影会」をテーマに、「個人の車による相乗り撮影会」⇒「マイクロバス利用による撮影会」を進め定着して来たが、これからは、「高齢化に対応した撮影会」をテーマに、撮影地、撮影ルート、撮影時間等を検討する必要性が出て来ると思っています。

今回の撮影会では、天候・撮影地の状況等から変更が余儀なくされ、井上さん、菅澤さん、ガイドの川名さん、宿の責任者、マイクロバスの運転手さんとの調整が大変だったと思います。

お陰さまで、撮影会を楽しむことが出来ました。

ありがとうございました。

(文責:戸張 眞)

新たな仲間紹介

釣り用語の一つに、夜明けから日の出までの時間帯を指す「朝マズメ」。日没前後 1 時間の時間帯を指す「タマズメ」があります。この二つは「まずめ時」と呼ばれ、どちらも魚がよく釣れる時間帯といわれています。風景の美しい撮影時間帯と似ていませんか？

申し遅れましたが2月に入会しました長澤です。若いころから趣味は「釣りと写真」でしたが、6~7年前からは写真の方にエネルギーが傾いています。

JNP の存在は、数年前に裏磐梯の宿で一緒した神奈川支部の方と話が合い、勧誘されたのですが距離が離れていましたのでお断りしたものの、この時から気になっていた写真クラブではありました。入会前は、スナック、風景他なんでも撮られる？Y 写真クラブに所属し

ていましたが、やはり自然の中で感動した場面を切り取って持ち帰りたいという思いが強く、風景に絞ろうと思って Y 写真クラブを退会、サイトを閲覧して活動が活発な東京支部に決定しました。

さて、写歴は何年？とよく聞かれますが、えーとナンネンカーと言葉に詰まります。写真機に興味を持ち撮影を始めたのは 50 年前ですがシャッターを押した回数が基準ですとかなり少ない。ちなみに最初買ったカメラは中古のキャノン FT(絞り込み測光)レンズは50mm F1.8、SSはなんとMAX1/500 でした。30 代半ばから風景に興味を持ちミノルタ、コンタックス、ニコン、キャノン、と渡り歩き、最後はFujilに落ち着きました。

「趣味は道具から」を標榜する私です。道具のせいのできないので後は腕を磨くべくシャッターを押すだけです。面倒なことが嫌いな私は撮影がJPEGです。このため、出来るだけ現場で完成品にしようと思ひ、ハーフNDフィルターは必須で1枚1枚じっくりと撮るように心掛けています。

これからも写真ライフを楽しむために、心地の良い適度な距離感でのお付き合いを宜しくお願い致します。

(文責 長澤 俊美)

写友広場

2023年2月から5月の間には以下の方が入選入賞されました

■ 日本写真家協会 (JPS) 公募展

銀賞 祈り (5枚組写真) 藤野治雄

(文責 戸張伸子)

事務局より

萩原史郎先生の突然のご逝去により、下記のように新たな講師をお願いした。

A: 第3回、第4回定例研究会講師:

福田健太郎先生

B: 第21回作品展作品選定講師:

山口高志先生

また、諸事情によりケンコー・トキナーの会場が使えなくなったため、会場が京橋近辺の区民館に変更となる。研究会の日にちも、予約が出来やすい日曜に変更する。万が一予約ができなかった場合は、リモートでの研究会を考える。ご不自由をおかけするとおもいますが、宜しくお願いします。

- 第1回特別研究会 講師 辰野 清先生
7月2日(日) 京橋プラザ区民館
- 第3回定例研究会 講師:福田健太郎先生
8月 20日(日)*
*:7月1日にネット予約で決定、京橋近辺
- 第2回特別研究会 講師:未定
10月1日(日)*
*:9月1日にネット予約で決定、京橋近辺
- 第4回定例研究会 講師:福田健太郎先生
12月10日(日)*
*:11月1日にネット予約で決定、京橋近辺
(土曜日は予約が殺到する可能性があり、福田先生とも相談し、日曜日に変更した。)
- JNP 本部 秋の大撮影会(予定)
志賀高原
10月17日(火)~19日(木)
- 東京支部秋の撮影会
月山(志津温泉近辺)
10月29日(日)~31日(火)
- 第21回作品展
11月3日(金)~11月9日(木)
富士フォトギャラリー一銀座
作品選定講師:山口高志先
(文責 井上武夫)

編集後記

今年は桜の開花が例年より早く、季節が春から新緑へと駆け足で過ぎていってしまった感があります。雪解けも早く月山の撮影会で残雪があるのか心配しましたが、大丈夫でした。

その新緑の季節の中、5月20日に萩原先生による講評会があり、その翌日急逝されるという衝撃的な出来事がおきました。私は先生の写真展を何回か見たり、

特別研究会と講評会で3回講評をしていただいただけなのですが、丁寧なご指導がとても良かったので、これからの2年間にたいへん期待していました。急逝のショックは大きく喪失感を感じています。

先生との関りが深い方々はもっともっと辛いことと思います。受け止めるには長い時間が必要なことでしょう。63歳の若さでありにも早すぎます。

志賀高原のロケハン中に倒れたそうで、新緑の季節の中を萩原先生も駆け足で遠くに行ってしまうれました。この季節が巡るたびに思い出すことでしょう。

東京支部の歴史の中では過去に斎藤友覧先生が会期中で脳梗塞で倒れて降板され、山本一先生が急遽代わってくださったことがありました。斎藤先生は仕事もおやめになり数年後に逝去されるという悲しい出来事がありました。

会員の方も4人も見送ってきました。

またこんな悲しい思いをしたくはなかったのですが……

明日があることが当たり前のように思っている私達ですが、限りある時間の中で生きているのだと改めて気づかせていただいたような気がします。

写真を楽しめることに感謝しつつ、毎日を大切に、いつまでも心に残る作品をめざしていきたいものです。萩原先生のご冥福を心よりお祈りして編集後記といたします。 合掌

(文責 戸張伸子)